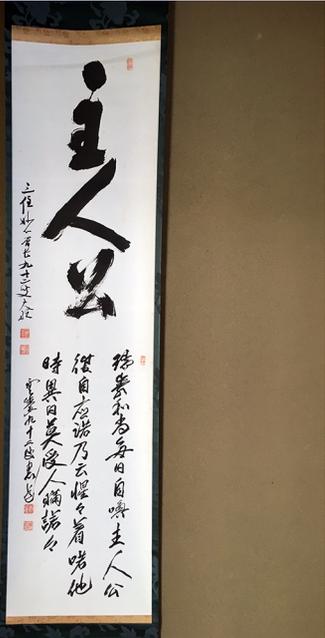


實相寺 花園会報

平成三十年
三月一日発行
発行所
臨濟宗妙心寺派
陽明山 實相寺
實相寺花園会
〒761-0450
高松市三谷町
1811番地1
TEL.087-889-3838
編集発行人
山本文匡
<http://www.jissouji.net>

第108号

「主人公」筆 妙心寺管長 古川大航老大師（明治四年〜昭和四十三年）
賛「瑞巖彦和尚云々」 雲巖寺僧堂師家 植木憲道老大師（明治四年〜昭和四十二年）



禅書『無門関』にある有名な禅問答。
昔中国の瑞巖ずいかんにいた彦和尚げんわしやうは、毎日自分自身に「お前は自らの主人公か？」「他人に騙されるなよ！」と問いかけ、自ら「ハイ！」と答えていたそうです。
それを当時九十二歳だった、明治生まれの二人の老師が揮毫されています。お互い私達は今、自らの人生を主人公として生きているでしょうか？

北側道路拡幅工事中

現在實相寺の北西側道路で拡幅工事が進められています。従来、車は北東側からしか進入出来ませんでした。完成すれば北西側からの進入も可能になります。市の29年度事業ですので、お施餓鬼に間に合うと有り難いと思います。



本堂・玄関幕ご寄進のお願い

補修しながら40年以上使用してきた本堂・玄関幕ですが、近頃傷みがひどく、見積もりをとると本堂幕約17万円、玄関幕約10万円でした。この際、滅多に無い機会でもありますので、それぞれご寄進頂ける方を募りたいと思います。



新たな幕には施主名と共に「為〇〇家先祖代々」や「為〇〇〇〇信士菩提」等の為書きを入れさせて頂きます。今後また数年間使わせて頂きますので、ご先祖のご供養にもなるかと思えます。何卒ご協力の程、宜しくお願い致します。詳細はお気軽にお問い合わせ下さい。

随処ずいしよに主しゆと作るな②

「おかげさまの心

「いつでもどこでも仏さま 随処ずいしよ作主しよ」

前回「随処ずいしよに主しゆと作る」が、単に自分の主義や信条を主張することではなく、自らの立場や状況に応じて自由自在に働いていくことであることを確認しました。しかし「判つちやいるけど止められない」のも人間です。それは私達は肉体的感覚器官から生じる欲望（仏教的にいえば眼耳鼻舌身意げんにびぜつしんいの六根ろくこんから生じる五蘊ごうん）に執着してしまふからですが、とはいえないのままに生きる訳にもいきません。社会では人としての知性や人格が求められるからです。また生物学的にも人間は未熟児として誕生します。他の生き物の

ように生まれて直ぐ自分の足で立ち、自らお乳を探して飲むことは出来ません。

つまり人間は、社会の中で人としての教育を受け、成長してはじめて一人前になる生きものです。その根本にあるのが「人はどう生きるべきか？」という問題でしょう。古来人類はこの問題について探究してきました。それが宗教の歴史です。意外に思われるかも知れませんが、現代の繁栄をもたらしている自然科学は、キリスト教神学の中から発生しました。キリスト教は紀元前13世紀、奴隷だったイスラエル民族をエジプトから脱出させた預言者モーセが神と契約したユダヤ教に端を發し、イスラム教もその起源は同じです。同じ頃インドではバラモン教（ヒ

ンズー教）が生まれ、仏教もその影響を受けています。また中国では紀元前5世

紀頃から孔子や老子が儒教・道教を体系化し、禅宗を含む大乘仏教や日本文化にも大きな影響を与えました。

考えてみますと、世界に文明が発生して以来、常に人類は「人はどう生きるべきか？」について探究してきたといえます。そしてこの問いは現代の社会問題にも通じる普遍的な命題でしょう。そういう

意味では現在、宗教が単なる先祖崇拜や非科学的な迷信と誤解されているのは残念です。これから日本はこれまで経験したことのない超高齢化社会を迎える訳ですが、そうした状況の中で「私達はどう生きるべきか？」という問題を考える

時、その解決の糸口を先人達の足跡の中から見出すことも出来る気がします。

古代インドの『マヌ法典』には、人生を四つに分けた四任期よっしよじが説かれています。すなわち成人するまでは「学生期がくしよき」、家庭を持ち子供を養う期間は「家住期かじやうき」、子育てを終えたら、今度は自らの精神性を高める「林住期りんじやうき」、最後は全てを捨てて生きる「遊行期けうぎやうき」の四つです。

人生百年時代の今日、ただ経済活動と趣味を楽しむ余暇だけが人生の価値ではなく、人間として人格の完成を目指すことも大切ではないでしょうか？いくつになっても人格の完成には終わりはない筈です。「今、この自分」を生きることで、随処ずいしよに主しゆと作ることに繋がるのです。